



群馬県コンクール 金賞

お米を食べること

前橋市立木瀬中学校 2年 小林 澄央

「お米には神様がいるんだよ。」

「お米には人々の手間がかかっている。」

私はそんなことをよく言わっていました。お米は、はるか昔の縄文時代から人々に食べられていたそうです。そんな歴史のあるお米が今も食べ続けられています。

小さい頃の私はまだ、そんなことを考えたこともありませんでした。最初に、気付かされたのは、年長のときでした。私の通っていた保育園では食事に少し厳しい先生がいました。その先生はいつも食事を少し残している子がいたら、なるべく最後まで好き嫌いせず食べるようと言っていました。ある日、私がお米を少し残そうとしていたときのことです。その先生にこう言われました。

「お米、一粒一粒にはね、たくさんの神様がいるんだよ。そのお米を少しだけ残したら、食べてもらえなかったお米も、そこにいる、たくさんの神様も、悲しくて悲しくて、泣いているかもしれないよ。」と。私は、そのとき初めていつも当たり前に食べていたお米に、神様がいるということを知って、残さずに頑張って最後まで食べようと思えたのです。今考えるとその言葉は、お米にも私たちと同じ小さな命があったのだから、せっかくの命を私たちのために預けてくれたのだから、最後まで残さずに食べよう、ということを伝えたかったのかもしれないと思います。小さい頃の私が初めて、最後まで残さず食べることの大切さを知るきっかけとなった出来事でした。

もう一つは、小学生のときのことです。社会の学習で、お米がどういう過程で作られていて、どうやって安全安心に、美味しく食べるため、売場まで届けられているのかを知りました。お米を作る農家の、スーパーマーケットなどの売り場で売っている人などとお米はたくさんの人の手にわたり、その人たちの手間がかかり、いつも美味しく食べている人たちへ、そのお米が届きます。そこに届くには、本当にたくさんの人の手間や気持ちが関わっていることが、その社会の学習を通して分かりました。

ある日、その話と似たような話を聞きました。それは小学校の先生が話していたことでした。

「お米という漢字には八十八回もの手間がかかっているという意味がこめられているんだ。」といいました。八十八回というのは、「米」の点を逆さにし、はらいの部分を切りはなして書いてみると分かるそうです。確かに八十八という漢字がでてきました。八十八回もの手間がかかっているという意味が昔からある漢字にもこめられているということは、それほど、たくさんの手間をかけて機械もない時代でも美味しく食べるために一生懸命作っていたということなんだな、と改めてすごいことなんだと感じました。

昔から美味しく食べるため手間をかけ作られたお米だからこそ、神様が一粒一粒に宿っていて、そのお米を残さず食べることで、私たち人間は健康に元気に、生活をおくることができます。まだまだ、貧困、飢餓、戦争などがある世の中で、お米が当たり前に食べられているわけではありません。私たちが、安心安全に美味しく食べて、健康に元気に生活できていることがまず、奇跡です。このこともふまえて、お米を食べられていることに感謝して、生活していきたいです。